

IDC MarketScape: Worldwide Enterprise Planning, Budgeting, and Forecasting Applications 2022 Vendor Assessment (Japanese version)

Ray Huo

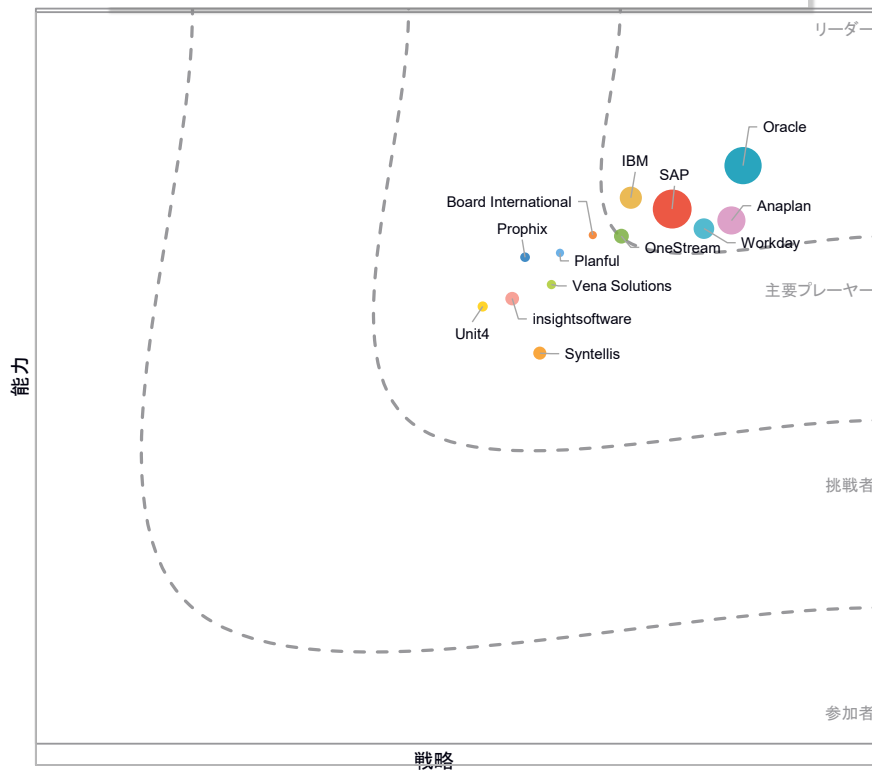
Dan Vesset

IDC MARKETSCAPE FIGURE

FIGURE 1

IDC MarketScape Worldwide Enterprise Planning, Budgeting, and Forecasting Applications 2022 Vendor Assessment

IDC MarketScape : 世界の企業計画、予算編成、予測関連アプリケーションのベンダー評価(2022年)



Source: IDC, 2022

調査方法、市場定義、ベンダーの評価基準については、「補遺」のセクションを参照のこと。

調査概要

本 IDC MarketScape Excerpt は、『IDC MarketScape: Worldwide Enterprise Planning, Budgeting, and Forecasting Applications 2022 Vendor Assessment (IDC #US48985622)』からの抜粋である。本調査レポートには、Figure 1に加え、「IDC の見解」「IDC MarketScape における評価対象ベンダー選定基準」「IT パイヤーへの提言」「ベンダー プロフィール (要約)」「補遺/関連資料」のセクションの内容、またはその一部が含まれる。

IDC の見解

本調査レポートは、IDC MarketScape の調査方法を活用して、2022 年時点での企業プランニング、予算編成、予測関連のアプリケーションベンダーを世界規模で評価したものであり、これらアプリケーションの定量的および定性的特性についての情報を提供している。本評価は、包括的かつ厳格なフレームワークに基づき、ベンダーを基準および相対的な比較によって評価している。主な調査結果は以下の通りである。

- インフレ圧力、サプライチェーンの制約、労働力不足や技能不足、地政学的紛争などが原因で次々に発生した混乱によって、俊敏な意思決定やプランニング策定の差別化価値が高まった。
- こうした俊敏性への要求が、部門横断型プランニング、継続的プランニング、緊急時対応プランニング、シナリオプランニング、制約に基づく分析機能などに対する需要の追い風となっている。
- 企業は、意思決定とプランニング策定の俊敏性向上に寄与するソフトウェアを求めると同時に、こうしたプロセスにおけるタスク自動化の強化も求めている。
- 企業プランニング、予算編成、予測関連のソフトウェアは、数十年前から利用されており、機能も豊富である。たとえば、さまざまなビジネス機能全般のプランニング策定活動を調節する機能である部門横断型プランニングは、かつては差別化要因であったが、現在では広く利用されている。こうしたソフトウェア市場は成熟していて、ソフトウェアベンダー間の差別化を図ることが難しくなっている。当該ソフトウェア市場の最新動向を以下に示す。
 - 先行的予測、異常検知、シナリオ分析をサポートする AI (Artificial Intelligence: 人工知能) / ML (Machine Learning: 機械学習) のような高度なアナリティクスの統合
 - ソフトウェア導入までの時間を短縮し、組織全体の特殊なニーズをサポートするために、業界やビジネス機能に関するコンテンツ (テンプレート、メトリクス、特定のソース システムとの接続、ワークフロー、特殊なデータセットなど) の拡充
 - ソフトウェア内の非同期型および同期型コラボレーションや、ナレッジの作成、保持、共有のための機能向上
 - 新世代のクラウドベース アプリケーションを活用したスケーラビリティとパフォーマンスの向上
- テクノロジー プロバイダーは、継続して起こる市場変動が要因で生まれた需要に対応していて、さらに、複数の専門ベンダーが、プライベートエクイティ企業によって買収された後、新たな出資を受けたため、こうしたソフトウェア市場の急速なイノベーションが今後も続く予測される。

IDC MarketScape における評価対象ベンダーの選定基準

本 IDC MarketScape 分析における評価対象ベンダー選定基準を以下に示す。

- スタンドアロンのパッケージ化された企業プランニング、予算編成、予測関連のアプリケーションを市場向けに供給している。本サブセグメントは、さらに広範な企業業績管理 (EPM: Enterprise Performance Management) のアプリケーション市場に含まれる。

- 対象の各ベンダーは、IDCのSemiannual Software Trackerに基づき、2021年における企業プランニング、予算編成、予測関連ソフトウェアの収益水準である5,000万ドルを満たさなければならない。
- 市場でのプレゼンスと動向は、IDCの調査およびその他の関連する調査結果に基づくものである。

除外されるベンダーは以下の通りである。

- 主に決算および連結市場に重点を置くベンダー
- ビジネスインテリジェンス（BI：Business Intelligence）ツール市場のベンダーで、その製品が財務やその他の事業領域のデータを分析するためにも使用される可能性があるベンダー
- スタンドアロンの高度分析や予測分析またはAI/MLソフトウェアのベンダー
- 2022年の時点で一般に利用できるクラウドベースの企業プランニング、予算編成、予測関連アプリケーションを有していなかったベンダー

ITバイヤーへの提言

企業プランニング、予算編成、予測を、財務部門に関連するプロセスとしか考えていない企業もあるが、近年の市場変動によって、俊敏性とレジリエンスを実現する上で、こうしたソフトウェアとそれがサポートするプロセスの重要性が強調された。企業プランニング、予算編成および予測に関する新しいテクノロジーを評価する企業は、以下の項目を検討する必要がある。

- ソフトウェアベンダーの候補を絞り、評価する際のツールの一つとして、現行のIDC MarketScapeを利用する。
- これまで同様、POC（Proof of Concept）や評価デモを検討し、企業統計上だけでなく、エンタープライズインテリジェンスの水準の点からも企業のプロファイルと一致する情報を要求する。すべてではないが、大半のベンダーが何らかの無料トライアルを実施しているため、IDCでは企業に無料トライアルの検討を推奨している。
- テクノロジーベンダーは一般的に、一部の市場において他の市場よりも強い影響力を持っているため、ベンダーが特定の業界、地域および企業規模区分に重点を置いていることを理解する必要がある。こうした重点分野は、ベンダーが販売後の導入をサポートできるかどうかを判断する1つの要素となる。
- ベンダーの技術だけでなく、プランニング、予算編成、予測に関する自社のビジョンとの整合性、さらにソフトウェア導入をサポートする際にベンダーが提携しているサービスパートナーの質も評価する。
- ソフトウェアの機能の評価する場合、以下のような機能が利用できるか、またそのロードマップについて確認する必要がある。
 - ユーザーの作業パフォーマンスを向上させ、特定の反復的な手作業を自動化するために、幅広いEPMプラットフォームへAI/MLなどの高度な分析機能が統合されていること
 - 領域特化型の複数のプランニングの調整と、企業全般のプランニングと予測の統合を可能にする部門横断型なプランニングが存在すること
 - 柔軟なシナリオプランニング、what-if分析、迅速な再予測が可能なこと
- 不透明な市況が続く中、企業は、企業プランニング、予算編成、予測関連のソフトウェア評価の一環として、外部インテリジェンスやDaaS（Data as a Service：サービスとしてのデータ）の利用を検討する必要がある。IDCの調査によると、ソフトウェアに第三者のデータを取り込むことで、企業が社内データから引き出せる潜在的価値を向上できる。

ベンダー プロフィール (要約)

本セクションでは、本調査レポートにおいてベンダー ポジションを導き出した IDC の見解をまとめています。なお、各ベンダーに対する評価は「補遺」のセクションに記述する基準に基づいて行われているが、本セクションでは、ベンダーの強みと課題をまとめています。

Anaplan

Anaplan は、企業プランニング、予算編成、予測関連のアプリケーションに関する「2022 IDC MarketScape」において、リーダー (Leader) のポジションとなった。

Anaplan は 2006 年に設立され、カリフォルニア州サンフランシスコに本社を置く。クラウド EPM ベンダーとして、財務プランニング/財務分析 (FP&A)、販売、マーケティング、サプライチェーン、オペレーション、ワークフォースなど、多くのビジネス機能に渡るプランニング/業績管理機能を提供している。56 か国に 2,000 社を超える顧客を持つ Anaplan は、2018 年 10 月に上場後、2022 年 6 月にプライベートエクイティ企業の Thoma Bravo (トーマ・ブラボー) に 104 億ドルで買収され、その直後に非公開化された。IDC の調査では、Anaplan は収益ベースで最大規模の (大手 IT プロバイダーの 1 部門ではなく) 独立系 EPM ソフトウェア ベンダーである。

Anaplan は、企業内のさまざまな事業領域にまたがるプランニングの調整に寄与する部門横断型プランニングの概念を中心に戦略を構築してきた。同社の顧客の大半は、まず財務プランニングから着手するが、その多くが、異なる領域にまたがる複数の事業プランニングプロセスを統合することのベネフィットを認識し始めている。

同社の最近の戦略的投資には、継続的かつ部門横断型プランニング立案機能の強化、AI/ML 技術を搭載した自動予測機能の開発、社内外のデータ統合機能の強化などがある。最新のイノベーションとして、Anaplan PlanIQ 機能内で Amazon Forecast サービスを利用する拡張予測や、クライアントのスケラビリティと次元に関する要件に対処する新しい計算エンジンでありストレージエンジンである「Polaris」などがある。

Anaplan は、そのロードマップにおいて、継続的かつ部門横断的なプランニング、監査/ガバナンス/リスク管理、エンドユーザーエクスペリエンスとワークフロー、先行的予測とシナリオ分析、テンプレート化されたソリューション アクセラレーターの 5 つの戦略的分野の強化に重点を置いている。

強み

Anaplan は、単一のビジネス機能と部門横断型プランニングの両方をサポートする単一プラットフォームを提供し、戦略的テクノロジー パートナーと共にプラットフォームを拡張できる。また、同社は、主要なビジネス インテリジェンス システム、電子署名ツール、ならびにデータ統合/移動技術との専用コネクタを提供する。このプラットフォームでは、モデル展開の簡易化や機能間の意思決定の迅速化のために、データ共有、階層、計算ロジックを実現できる。

顧客によれば、同社のプラットフォーム上では、モデル構築の際の柔軟性が高く、平易な言語による数式や Microsoft Excel のような関数を使って実施できる。また、使いやすく、臨機応変に what-if シナリオを作成、分析できることから、Anaplan に対する顧客からの評価は高い。

課題

過剰な柔軟性は、特に中小企業にとっては両刃の剣となる可能性がある。なぜなら、中小企業は、社内の技術専門スタッフの数が限られているため、プランニング、予測、予算編成に対してテンプレート化または体系化されたアプローチを一般的に好むからである。しかし、Anaplan では、App Hub でさまざまなプランニング、予測、予算編成の事前構築済みテンプレートを実際に提供している。近い将来、ユースケース ベースのガイド付きアクセラレーターを追加すること

で、これらのテンプレートの導入とソース データ システムとの統合が、さらに容易になることが予測される。

Anaplan を検討すべき場合

貴社が重大な混乱に直面してシナリオ分析や再予測が頻繁に必要となる場合や、ユーザーにスプレッドシートの使用を要件として課すモデルを管理している場合、または財務プランニングだけでなく、他の事業領域にも及ぶユースケースを導入できる部門横断型プランニング機能を優先している場合、Anaplan を検討すべきである。

補遺

IDC MarketScape Graph の読み方

IDC では、企業の成功の可能性を示す主要な指標を、能力と戦略の 2つのカテゴリーに分けて分析している。

Y 軸は、現在ベンダーが保有している能力（ケイパビリティ）、サービスメニュー、そしてベンダーが顧客ニーズにどれほどうまく対応できているかを示している。このケイパビリティは、現在の組織や製品の能力に関するものである。このカテゴリーに基づき、IDC アナリストは、市場戦略を遂行する上で、こうした能力をどのように築き上げ発揮しているかを分析している。

X 軸は、ベンダーの将来戦略が、顧客が 3～5 年後に要求する内容に適合する度合いを示す戦略軸である。この戦略軸は、高度なレベルの意思決定や製品／サービス提供、顧客セグメント、事業に関するプランニング、3～5 年後の顧客への製品／サービス提供プランニングに関するものである。

IDC MarketScape の個々のベンダー マーカーのサイズは、評価の対象となっている市場セグメントにおける各ベンダーの市場シェアを示す。

IDC MarketScape で対象となっている、プランニング、予算編成、予測アプリケーションの企業業績管理ソフトウェアを提供するベンダーは、ポートフォリオの幅と地理的プレゼンス、製品の革新的特徴、顧客満足度と顧客からの評判、企業の全般的な健全性に特に重点を置いて評価される。

IDC MarketScape 調査方法

IDC MarketScape の評価基準、重み付け、ベンダー スコアは、市場やベンダーに関する十分な調査に基づいた IDC の判断によって設定されている。IDC アナリストは、基準となる特性の範囲を定め、それに基づき、市場のリーディングベンダー、市場参入ベンダー、エンドユーザーとのインタビュー、分析、調査を通して、ベンダー評価を行っている。市場の重み付けは、各市場に関するユーザーインタビュー、バイヤー調査、IDC の専門家で構成される委員会のレビューに基づき行われている。IDC のアナリストは、詳細な調査、ベンダーインタビュー、公開情報、エンドユーザーからの情報、個々のベンダーのスコア、ポジショニングの分析結果に基づき、正確で一貫性のあるベンダー評価を行っている。

市場定義

企業プランニング、予算編成、予測関連のアプリケーションとは、事前にパッケージ化されたソフトウェアアプリケーションを指し、コラボレーション、知識共有、ワークフロー管理のための機能が組み込まれていると同時に、データの取り込み、モデリング、分析、可視化機能が統合されている。この市場における最新のアプリケーションはクラウドベースであり、強化すべき高度な分析機能や AI/ML、または財務分析、予算編成、単一または部門横断型プランニングの予測、さらにシナリオ分析に関連する自動化プロセスを組み込んでいる。

これらのアプリケーションは、上記の機能に加えて、決算および連結、財務報告、部門横断型リスク管理、目標や主要業績などのさまざまな業績管理方法のための機能が組み込まれている、より広範な企業業績管理アプリケーションの一部である。

参考資料

関連調査

- *IDC FutureScope: Worldwide Data and Content Technologies 2023 Predictions* (IDC #US48733222、2022年10月発行)
- *Worldwide Enterprise Performance Management and Analytic Applications Market Shares, 2021: Growth in Cloud Deployment, Advanced Analytics, and Integrated Planning Continues to Fuel Market* (IDC #US48733922、2022年9月発行)
- *Worldwide Big Data and Analytics Software Market Shares, 2021: Business Intelligence, Enterprise Performance Management, Data Platforms, Geospatial Analytics, and Advanced Analytics* (IDC #US49623022、2022年9月発行)
- *Worldwide Big Data and Analytics Software Forecast, 2022-2026* (IDC #US48083022、2022年7月発行)
- *IDC MarketScape: U.S. Business Intelligence and Analytics Platforms 2022 Vendor Assessment* (IDC #US48061021、2022年7月発行)
- *IDC Market Glance: Enterprise Performance Management and Analytic Applications, 1Q22* (IDC #US48845522、2022年2月発行)

Synopsis

本調査レポートでは、企業プランニング、予算編成、予測関連のアプリケーションを提供する13社のベンダー評価を行っている。この評価は、包括的かつ厳格なフレームワークに基づき、ベンダーを基準および相対的な比較によって評価している。企業は、部門横断型かつ領域特化型のプランニング、予算編成、シナリオ分析、予測、財務分析プロセスをサポートする新しいソフトウェアを求めているため、本調査では、企業に最も影響を与えると予測される要因を指摘した。この評価は、ベンダーの最終候補リストを決定する際に活用できる。

IDC Business Analytics and Decisioning のシニアアナリストとして、マーケット調査やアドバイザリー業務を担当している Raymond Huo は、「企業は、事業環境の変化に適応し、市場の変動に対処する俊敏性を強化するために、最新の企業プランニング、予算編成、予測関連アプリケーションへの投資を今後も継続して行うことが予測される」と述べている。

IDC 社 概要

International Data Corporation (IDC) は、IT および通信分野に関する調査・分析、アドバイザリーサービス、イベントを提供するグローバル企業です。50年にわたり、IDCは、世界中の企業経営者、IT 専門家、機関投資家に、テクノロジー導入や経営戦略策定などの意思決定を行う上で不可欠な、客観的な情報やコンサルティングを提供してきました。

現在、110 か国以上を対象として、1,100 人を超えるアナリストが、世界規模、地域別、国別での市場動向の調査・分析および市場予測を行っています。

IDC は世界をリードするテクノロジーメディア（出版）、調査会社、イベントを擁する IDG（インターナショナル・データ・グループ）の系列会社です。

Global Headquarters

140 Kendrick Street
Building B
Needham, MA 02494
USA
508.872.8200
Twitter: @IDC
blogs.idc.com
www.idc.com

Copyright Notice

This IDC research document was published as part of an IDC continuous intelligence service, providing written research, analyst interactions, telebriefings, and conferences. Visit www.idc.com to learn more about IDC subscription and consulting services. To view a list of IDC offices worldwide, visit www.idc.com/offices. Please contact the IDC Hotline at 800.343.4952, ext. 7988 (or +1.508.988.7988) or sales@idc.com for information on applying the price of this document toward the purchase of an IDC service or for information on additional copies or web rights. IDC and IDC MarketScape are trademarks of International Data Group, Inc.

Copyright 2022 IDC. Reproduction is forbidden unless authorized. All rights reserved.

